

貫首・貫主・管長・座主・門主・門首・法主

上の7つの称号は、日本における仏教各宗派の代表者を呼ぶのに使われている称号です。

- 1.貫首(かんす) 成田山 (かんしゅ) 2.貫主(かんしゅ) 3.管長(かんちょう)
4.座主(ざす) 5.門主(もんしゅ) 6.門首(もんしゅ) 7.法主(ほっす)

そもそも貫首(かんす)とは、古代の律令制の戸籍を意味する「貫籍」(かんじやく)の筆頭人のことです。それが転じて、本山などのトップを意味するようになったとのこと。

でも貫首ではなくて、他の称号を用いている宗派もありますが、どうしてなのか？

多分、他の宗派と自派を区別し、独自性を作るためだろうというのが推論でした。

もともと、明治初期の「廃仏毀釈」運動が、少し一段落した1872年(明治5年)に、政府は「教部省」を設置し、神社、寺院、陵墓などを一括して管理しようとした。その時、各宗派に「管長」職を作らせ、宗派内の取り締まりに当たさせたのです。この時点で、国は宗派トップの名称を「管長」に統一しようとしたのです。本当に統一して欲しかったですね。

ところが、やっと廃仏毀釈の嵐をくぐり抜けた仏教各宗派は、神道的な規範を押しつけられる事に猛反発し、大もめにもめたあげく、「教部省」自体が5年後に廃止になってしまいました。

その時に「管長」という名称を素直に受け入れた宗派と、その後、かつて使っていた名称を復活させるなどした宗派も現れ、現在のようにになりました。つまり、お寺や宗派のトップの名称がバラバラなのは、信教の自由のひとつの表現かもしれないというわけです。日本の伝統仏教宗派は13宗に分けられるそうですので、以下がその概要なのです。()内は本山トップの名称で、最後に書かれているのが、宗派トップの名称です。

()がない宗派は、その2つが同一ということです(多分)。

宗派名	大本山(総本山)	宗派トップの名称
1) 華嚴宗	大本山東大寺	管長
2) 法相宗	大本山薬師寺 大本山興福寺	貫首 貫首
3) 律宗	総本山唐招提寺	管長
4) 天台宗	総本山延暦寺(管長)	座主
5) 真言宗	総本山金剛峯寺(座主)	管長
6) 浄土宗	総本山知恩院(門跡)	門主
7) 浄土真宗	浄土真宗本願寺派 本山西本願寺 真宗大谷派 本山東本願寺	門主 門首
8) 時宗	総本山清浄光寺	法主
9) 融通念仏宗	総本山大念仏寺	管長
10) 臨済宗	大本山妙心寺	管長
11) 曹洞宗	大本山永平寺 (貫首) 大本山總持寺 (貫首)	管長 管長
12) 黄檗宗	大本山黄檗山萬福寺	管長
13) 日蓮宗・法華系仏教	(法主)	管長

ここで傑作なのは、

次のようなところでしょうか。

- A) 東本願寺(真宗大谷派)のトップは門首で、西本願寺(浄土真宗本願寺派)は門主と言います。お互いのライバル意識が強いことが、ここからも想像できますね。
- B) 天台宗と真言宗では、総本山トップ名と宗派トップ名が、逆になっています。
- C) 曹洞宗の管長は、2つの大本山の貫首が、2年ごとに交替して役につきます。
- D) 臨済宗、曹洞宗、黄檗宗の禅宗系の3宗派は、すべて宗派トップが管長となっています。つまり、明治政府がそれに統一したかった称号です。禅宗というのは、そういうことにこだわらないのか、はたまたお上の意向には逆らわないという傾向を持っているのでしょうか？

智積院では化主(智積院住職)

智積院では住職のことを「化主(けしゅ)」といい、あるいは「能化(のうけ)」といいます。

「能化」とは「よく衆生を教化する」という意味です。

成田山のトップは貫首(かんす)といいます。